

(様式1)

# 推薦事例の概要

島根県

県名・所在地	集団・地区名	規模性格等	総人口及び農業就業人口 (総人口に対する割合)	総世帯数及び農家数 (農家率)	農業生産の概要 (主要作物、農用地の利用等)	地区の特色	所見
島根県・出雲市	「有限会社グリーンワーク」東村地区 山間農業地域	(集落数5)・地縁的な集団	総人口 290人 農業就業人口 50人 (17%) 認定農業者数(うち法人) 2人 (1)	総世帯数 100戸 農家数 59戸 (59%) 販売農家数 33戸 (24%) (内訳1) 専業農家 8戸 (24%) I兼農家 0戸 (0%) II兼農家 25戸 (76%) (内訳2) 主業農家 2戸 (6%) 準主業農家 3戸 (9%) 副業的農家 28戸 (67%)	主要作目の生産概要(面積、生産額)※(有)グリーンワークの状況を記載 水稲(直営面積) 11.2ha (162万円) 野菜 150樽 (38万円) 農家1戸当たり農業産出額(構成員平均) 28.6万円 農用地の状況 耕地計 17ha 田 14ha 畑 3ha 樹園地 0ha 採草放牧地 0a 耕地率 不明 農家1戸当たり農用地面積 0.29ha	(1) むらづくりの背景・動機 飯栗東村地区は神戸川の両岸の急峻な地形にあり、深刻化する少子高齢化や米の生産調整による耕作放棄の増加等により、農業の衰退から鳥獣被害の発生や空屋ができるなど地域の存在すら危ぶまれる状況にあった。そのような危機感の中から「地域を守ろう、農業の受け皿になろう」と当地区内にも2つの営農組織が生まれていた。しかし、従来型の「地域全体救済」的な営農理念では組織オペレーターの高齢化や増える一方の委託希望者を地域内に留めておくことが出来なくなっていた。 このような状況の下、既存の集落機能を生かし発展させるために、「グリーンワーク」は平成15年に他1組織を吸収合併する形で、有限会社として新たなスタートを切った。 (2) 活動概要 ①生産面における取り組み 織活動は従来型の地域内水稲作業の受託などの水田営農と併せて島根県認証のエコロジー農産物(農薬・化学合成肥料の5割減)やトマトの養液樽栽培(軽少量培地耕)に取り組み、産直や直売所で販売し良食味で好評を得るなど地産地消にも取り組んでいる。 さらに農業協同組合所有の水稲育苗やライスセンターも受託運営し、集落エリアを越えた農業振興に寄与するなど広域農業支援も担っており、新会社では「地域のために・地域とともに」との経営理念を掲げ、従来の地域農業維持でなく、地域振興の視点を取り入れた活動で年間雇用の場を確保している。その結果、Iターン者の受け入れを行い、平成22年度も更に1名のIターン者の雇用を計画している。 ②生活改善の取り組み状況 近年増加しつつあった畦畔の草刈り対策として羊を放牧し遊休化の防止や有害鳥獣の被害低減を行っている。副産物の羊毛を活用して地域女性グループの加工・販売への支援などの女性活動の場を提供するなど地域活動支援を行っている。 その他、高齢者の生活援助のための送迎(外出支援)事業、産直グループの農林産物の出荷支援。生活環境を豊かにするための森林公園の指定管理等、積極的に地域振興の一端を担うサービス事業も展開している。	地域農業をどう守るかから始まった営農組織が、地域振興の受け皿として活動を展開しており、活動内容も中山間地での営農+多角的業務のモデルとして参考とすべきものが多いことから推薦する。